

会長講演

多様化する医療学習者に安心・安全な学びの場を提供するために

広島文化学園大学大学院看護学研究科
岩本 由美



高齢多死社会の到来とともに、私たち医療職者は、医療施設の中で患者の健康問題と関わるだけでは十分とは言えなくなってきた。安全な医療の場を作るのみならず、医療・保健・福祉の場の連携も視野に入れ、地域を包括した健康増進、疾病管理、そして、望ましい死を視野にいれた取り組みに関わることが期待されている。

医療に関わる専門職も多様化しており、チームとして連携し協働することが求められて久しい。実際に役割はどんどん増えており、そのための職種も作られて、医療職者の役割はどんどん変化していつている。

この時代に対応する医療人材を育成するためには、どうあればよいのか？個々の学習者が持つ可能性を最大限に生かすためには、どうあればよいのか？また教える側も学習者として互いに学び合う場をつくるためにはどうすればよいのか？

学ぶ側、教える側がお互いに安心して安全な学びの場を得るための工夫をどのように作り出せるかを検討していくために、本総会のテーマを「今、地域でつながろう！多様化する学習者を活性化し成長を支援する教育デザインを検討する」とし、みなさんと対話することでさらなる気づきを見つけ、みなさんの臨床の場で活用できる知見を持ち帰り、学びを加速化するつながりができることを期待する。

本総会では、招待講演として、ノンフォーマル学習の手法である「ワークショップ」研究について知見を深め、そのデザインの方法や実践者の育成について教授していただく機会を設けた。さらに、これからの複雑な意思決定を支援する次世代の医療・福祉・専門職に必要なリーダーシップの基盤となる「価値に基づく診療 (Value-based practice: VBP)」とそれを基に継続的に臨床で改善していく枠組みを開発していくための VBP ワークショップも続く。そして、本学会の中四国支部活動をはじめ、中四国地域ならではのシンポジウムに参加していただきたい。さらに、医療教授システム学に関する教育、対話、学習法、思考過程を鍛えるシミュレーション教育、実践例の提示、事例検討会、シミュレーションに基づく医療教育の国際的な連携の紹介など、様々な教育講演、教育企画、シンポジウム、ポスターセッション、交流集会を準備し、対話の場を設けている。総会後の併設コースも、この度初の地方開催ということで例年以上に多くのコースを計画していただいている。

本総会にはこれまで医療人材育成に取り組んだ失敗例や成功例をたくさん持っている人がそこらじゅうにいる。会場のオープンスペースやちょっとした場所で隣にいる人とつながってみたい。こんな取り組みをしてみたいけどいっしょにできないかな？まったく異なる職種だけれど、似たような課題をもっているかもしれない。話をしてみれば、どこかでつながっているかもしれない。聞いてみたいこと、悩んでいることを対話し、ワイワイがやがやすること、そこから湧き上がるエネルギーの場を共有できるであろう。

■略歴

岩本由美（いわもと ゆみ）

広島文化学園大学大学院看護学研究科 准教授。

学士（看護学）修士（学術）米国 RN、日本国看護師

米国 University of Louisiana, College of Nursing 卒業、米国で認定救急看護師として勤務した後、帰国。

広島大学国際協力研究科博士課程前期修了。1999 年より呉大学（現：広島文化学園大学）看護学部において成人看護学領域の講師を経て現職。2005 年米国メリーランド大学 Debra L.Spunt 博士との出会いからシミュレーション医療教育の普及と開発に関わる活動に携わる。2006 年より Nursing Association for Clinical Simulation and Learning (INACSL) 終身会員。

現在、International task force member として活動中。